

2021.05.16. 聖書の学び  
なぜ神はそれを許されるのか  
新約聖書ピレモンへの手紙 15～25 節

おはようございます第二礼拝へようこそ。日曜日の朝は、二つの礼拝があります。第一礼拝は、「聖書預言・アップデート」で、第二礼拝では、神の御言葉を一節毎に学びます。今日の聖書箇所は、ピレモンへの手紙、15 節から 25 節です。ご一緒に参加下さい。その間に、今日は、皆さんにお伝えしたい喜びの報告があります。この写真は、私たちの美しい教会の建物の写真ですが、屋根の上に携帯電話のアンテナがないのが、はっきり分かります。[拍手] 現在は撤去されています。これは、祈りに対する大きな答えです。祈ってくださった皆さんに感謝します。これで屋根の修理に取りかかれます。主を賛美します。これは、とても大きな神の御わざです。さて、御言葉に入りましょう。ピレモンへの手紙 15～25 節です。主の御旨に添えば、今日で、この短い手紙を終わらせるつもりです。可能な方はお立ち下さい。私が読みますので、ついてきてください。無理な方は座ったままで結構です。使徒パウロはピレモンに手紙を書き、聖霊によってこう言っています。15 節、

ピレモンへの手紙

15 オネシモがしばらくの間あなたから離されたのは、おそらく、あなたが永久に彼を取り戻すためであったのでしょう。

16 もはや奴隷としてではなく、奴隷以上の者、愛する兄弟としてです。特に私にとって愛する兄弟ですが、あなたにとっては、肉においても主にあっても、なおのことそうではありませんか。

17 ですから、あなたが私を仲間の者だと思えば、私を迎えるようにオネシモを迎えてください。

18 もし彼があなたに何か損害を与えたか、負債を負っているなら、その請求は私にしてください。

19 私パウロが自分の手で、「私が償います」と書いています。

あなたが、あなた自身のもっと負債があることは、言わないことにします。

これは、皆さんが考えていることとは違いますよ。これについては後ほど話します。

20 そうです、兄弟よ。私は主にあって、

あなたの厚意にあずかりたいのです。

私をキリストにあって安心させてください。

21 私はあなたの従順を確信して書いています。

私が言う以上のことまで、あなたはしてくださると、分かっています。

そして、22 節、「最後に一つ... (※日本語訳：同時に…)」ここからの借用です。

22 同時に( 最後にもう一つ)、私の宿も用意しておいてください。あなたがたの祈りによって、私はあなたがたのもとに行くことが許されると期待しているからです。

23 キリスト・イエスにあって私とともに囚人となっているエパfrasが、あなたによろしくと言っています。

24 私の同労者たち、マルコ、アリストアルコ、デマス、ルカがよろしくと言っています。

25 主イエス・キリストの恵みが、あなたがたの霊とともにありますように。お祈りしましょう、よろしければご一緒をお願いします。

ああ主よ、聖霊によって使徒パウロを鼓舞してこの手紙を書かせ、さらに、何世代も後の私たちのために、聖典の中に含める必要があると判断して下さったことを、心から感謝します。主よ、ここに、あなたが私たちに示されたいこと、語られたいことが多くあるからです。私たちは、あなたに細心の注意を向けます。どうか、私たちの人生に語りかけてください。主よ、お語りください、あなたのしもべは聞いています。イエスの名において。アーメン、アーメン。

ご着席ください、ありがとうございます。今日は、神が、私たちの人生に逆境を許される理由について話したいと思います。特に、何の意味を見いだせないときに、逆境を許されます。今日の箇所では、パウロがピレモンに、オネシモについて手紙を書いています、そうすることで、この「なぜ」という疑問に答えています。お分かりのとおり、ピレモンは本当に苦悩しています。これは非常に深刻な問題で、パウロにはそれが分かっています。パウロは非常に神がなさるような方法で、愛に満ちた方法でこの問題に対処しており、先ほど読んだように、主人のピレモンから何かを盗んだと思われる逃亡奴隷を、更生させようとしています。ピレモンは、自分の奴隷だったオネシモのことで、本当に苦しんでいたことがよくわかります。パウロがオネシモをキリストに導いたことで、奴隷だった彼がキリストの兄弟になったことを、この手紙によって知ることになります。これは大きな変化であり、この関係全体を変えてしまいます。

ここでは、神が、私たちの人生の困難な状況、つまり、全く理解できないような不可解な状況を許されるのを、なぜ適切だと判断されるのか、その理由を見ていきたいと思います。

最初のもは、15節と16節にあります。それは、神が、別の「無限大に良いもの」を用意しておられるかも知れないということです。パウロは、オネシモが騙し取った不正に対するピレモンの反論を、事前に察知しているかのようです。ところで、奴隷が主人から逃げ出すことは、死刑に値する犯罪であったことを覚えておいてください。ですから、本当にピレモンに対しては不当なことなのです。しかし、15節に注目していただきたいのです。ここで興味深いのは、パウロが「おそらく…でしょう」と言っていることです。なぜそんなことを言うのでしょうか？それは、ピレモンが何を考えているか、すでに知っていたからです。その理由とは何でしょうか？なぜ神はこれを許されたのでしょうか？パウロは、その理由の一つとして、次のように述べています。それはピレモンが、オネシモが自分に対して騙し取るような不正をしたことに本当に苛立っていたことを示しています。つまり、パウロはピレモンの「なぜ」という疑問に答えようとしているのです。「もしかしたら、神がピレモンにこのようなことが起こるのを許されたのは、別の無限大に良いことを備えておられるからかもしれない」と。あなたがたは間違いなく、

「わたしの思いは、あなたがたの思いと異なり、あなたがたの道は、私の道とは異なるからだ。」  
というイザヤ書の一節(55:8)をよくご存知でしょう。これは、とても慰めとなる言葉です。神のお考えは、私たちの考えていることとは異なるからです。もし神の思考方法が私たちの思考方法と同じだったら…どれほど恐ろしいことでしょう。神のお考えは、私たちの理解を超えており、神の方法は、私たちの方法ではありません。神の方法は、私たちが想像することができないほど無限に高いのです。パウロがここで、「なぜ」という質問に先取りして答えているという点で、その重要性をいくら強調しても、し過ぎることはないでしょう。このようなことが起こる理由は何なのでしょう？私はこう考えています。パウロは、神の方法が永遠であることをピレモンに思い出させています。問題は、私たちの方法は一時的なものであることです。私たちは、一時的に物事を考えてしまいます。ここで考えてみましょう。ピレモンは、どうすれば自分の奴隷を取り戻せるのかということ、一時的に、短絡的に考えていたのではないのでしょうか。オネシモは戻って来なければならぬ。彼にはやるべきことがある。彼は、正しいことをし

なければならない。彼は私から盗んだのだから、償いをしなければならない。それは非常に短絡的な思考ではないでしょうか？ パウロはある意味、彼に呼びかけ、確認して言っています。

「ピレモンよ、このように考えてみなさい。神の方法が、彼にそのようにさせたのです。なぜなら神の方法は永遠なのですから。」「今、あなたのキリストの兄弟であるオネシモについて、永遠の視点で考えてください。」だからこそ、パウロはピレモンに、「あなたはオネシモを取り戻すが、今はキリストの兄弟である彼は、天国で、永遠にあなたと一緒にいることになる。」と言っているのだと思います。

なんて斬新な発想でしょう。そんな風に考えたことはありません。私たちは、そのようには考えませんよね。私たちは、「今、ここ」のことしか考えません。物事を永遠に照らし合わせて、どのように進展していくかを考えません。これこそが、パウロが言っていることなのです。考えてみると、この世のすべての人にとっての究極の目的は出来るだけ多くの人々を、永遠の命のある、天国に連れて行くことであるはずですが。以前にもこの話をしたことがありますので、またかと思われるかもしれませんが、しかし次の話に移る前に、少しだけ話しておく必要があると思います。永遠に照らして人々を見ると、全体の様相がすべて変わります。あなたの人生におけるピレモンやオネシモを見ると、あなたを陥れた人、敵対した人、あるいは非難することを言った人がいます。あなたがそれらを、一時的な舞台から取り出して、永遠の舞台の、あるべき場所に置くとき、それはすべてを変えます。すべてが変わるのです。私たちが、どれだけ分裂しているかを考えると、特にこの国ではそうですが。ところで、それは本当に世界的なことで、さらに悪化しています。皆さんもご存知だと思いますが。つまり、自分とは違う見方をする、敵と思われる存在に腹を立てるように、すべてが仕組まれているのです。だから、彼らは敵なのです。彼らは私と同じ”政治的信念”を持っていないので、彼らは敵です。そして、特にテレビで彼らを見かけると、実際にテレビを消します。私は、彼らを軽蔑の目で見ています。なぜだかわかりますか？ 私はここで、自分自身のことを話しています。いいですか？ 皆さんの中で罪が示されないように。皆さんは、私よりも霊的に優れていますから、こんなことはしないでしょ。しかし、そういう風に軽蔑して見てしまうのは、私が一時的、今ここでのことしか考えていないからです。そして、ここでパウロが登場します。「JD、どうしたのですか？ 永遠の光に照らして考えてみたらどうですか？」「なんだって？」「彼らはイエスを必要としているのです。」彼らには本当に必要です。「もし彼らが救われたら？ 彼らがそうなるように祈りなさい。天国で彼らに会うことになるよ。」「私が？」それですべてが変わった、と言っても過言ではないでしょう。それは当然のことです。なぜなら、もし私が人を見るとき…そしてこれは私が…繰り返しになりますが、私自身葛藤していることですが、私たちは人々に、左派か右派か、共和党か民主党か、黒人か白人か、というレッテルを貼ってしまっていることです。そして、そうしてしまったことで、溝を作り出し、彼らの人間性を奪ってしまったのです。そして、もはや彼らを永遠の視点で見えてはいません。このように彼らを見るのはどうでしょうか？「救われているか、失われているか」どうですか？ それが永遠の視点で考えることであり、それが神の御心なのです。もうひとつ、パウロがピレモンに言ったことがあります。今日の教えのために、絞り出したいと思います。先に進む前に、もう一つだけ。一緒によく考えてみてほしいのです。私たちは一時的に人を見て、自分と意見が合わないといって、その人を敵とみなしてしまいがちです。そして、その人に対し怒ります。私たちは彼らを見ることはおろか、話を聞くこともしません。

「彼らが言ったこと、彼らがツイートしたこと、信じられる？」もっと個人的なことを言いましょう。「彼らが、私について投稿したって？」「彼らが私の投稿に返信した…？」「ああ…！私は彼らをブロックしよう！」もっと良い考えがあります。それは、今の一時的なものです。代わりに、彼らのために祈って

みてはどうですか？ それは、イエスが仰ったことではありませんか？

「自分の敵を愛し、自分を迫害する者、SNS にあなたの悪口を投稿する者のために祈りなさい。」

(マタイ 5：44 参照)

なぜだかわかりますか？ それは、あなたを変えるからです。つまり、ちょっと家で試してみてください /try this at home。「良い子はまねしないでね/don't try this at home (※直訳：家で試してはいけない)」と言われていますが、いや、家でやってみてください。今日家に帰ってこの話を聞いている間に、誰かのことが頭に浮かんできて、あなたは、「う”～！」となっているでしょう。

「…いいだろう、その人のために祈ってやろう…！」最初はあまりスムーズにいかないかもしれません。ちょっとした荒れ模様になるかもしれません。歯を食いしばって、神が祝福してくださるように祈ろうとしても、心の奥底ではまるで、神があなたの心をご存じないかのようです。心の奥底では、「神よ、彼らを祝福してください、本当は祝福しないで！」と思っています。しかし、神は彼らを祝福されます。これはどうですか？そして、神は彼らを救われます。あなたはヨナのようになるつもりですか？ ニネベ人が悔い改めて救われたとき、ヨナがどれだけ怒ったか知っていますか？ 実際、ヨナ書を読みると、彼は何の福音も説いていません。何の良い知らせも語ってませんでした。彼のメッセージが何だったか知っていますか？ 「神は、あなた方を焼くつもりだ、私はそれを待ちきれない。」基本的に、これは非常に緩い言い換えであることは明らかです。

「神は40日後には、あなたがたに火をつけようとしている。私はそこへ行って待つ。最前列で見ることになるので、待ちきれない。」

しかし、そういうわけにはいきませんでした。結局、彼らは悔い改めて救われました。ヨナはどうなったでしょう？ 彼は、「あなたは、彼らを救うべきではない！」と怒ってました。「私は救いました。私はそうしたのです。」「待ってください、なぜですか？」—「彼らを愛しているからです。」「そうなのですか？」ええ、準備はいいですか？いきますよ？

「わたしは、あなたを愛しているのと同じくらい、彼らを愛しているのです。」

どうですか？ 罪びとである私たちが救われたからといって、主の目の前でより好意を持たれていると空想するのはどうなのでしょう？ なんと、新しいレベルに到達したのですか？

「神は彼らを愛することはお出来にならない。私は違う。私はすでに救われているから。」

「私と神との関係を知っているでしょう？ 私たちはこんな関係です。しかし、彼らは違います。」

しかし、私が最後に確認したところでは、イエスは彼らのためにも、十字架で死んでくださったのです。二つ目の話に移る前に、もう1つの話をします。あなたが救われる前、人々はあなたのことを、その様な人間だと思っていました。私はただ、聖霊に任せて、あなたの心に、必要な働きをしていただきたいのです。二つ目の理由は、この逆境は「誰かのためになっている」のではないか、ということです。あなたが経験しているこの試練は、あなた自身のためではなく、誰かのためになっているのかもしれません。これは17節から21節にあります。ここで、パウロは基本的に、キリストが私たち全員のためにしてくださったのと同じことをしていますね。払えない借金を負っているオネシモのために、自分が負ってもない借金を払うことで。「私に請求してください、全額支払います。」「それを私の口座に請求してください。」と彼は言っているのです。それは、イエスが私たち一人ひとりに仰っていることではないでしょうか。

「彼らは罪の負債を負っている、私がそれを払います。それを私に負わせなさい。私がそれを支払う。」

それが彼の言っていることです。さらに彼は、パウロの口座から引き落とされたときに、自分の口座に入金されたことをピレモンに思い出させています。手紙の内容にそぐわないなどと、決して思わないでください。ただただ愛に溢れています。この手紙から、パウロがピレモンをとっても愛していたこと、そして、その逆もまた然りだということを知るべきです。気持ちが通じ合っていたのです。ですからパウロが、「オネシモのことは君が勝手に決めてくれ」と言っているとは、決して思わないでください。「私はただ、あなたにいくつかのことを考えてほしいのです。」「彼があなたから盗んだことは知っています。私はそれを支払います。私に請求してくればいい。」「そういえば、あなたは、私に、命の借りがありますが、それ以外のことは」それは彼が言っていることではありません。パウロは、オネシモが赦しを受ける側となる必要があるように、自分も赦しを受ける側になったことをピレモンに思い出させているのです。負債の免除です。罪の負債の赦しです。つまり、ピレモンはパウロに、恩義を感じていたのです。パウロは、ピレモンをキリストに導いた人であり、パウロがしているのは、自分が彼にしてあげたことを愛情を込めて思い出させているだけなのです。パウロは、ローマ人への手紙4章7から8節でこう言っています。

#### ローマ人への手紙4章

**7 幸いなことよ、不法を赦され、罪をおおわれた人たち。**

**8 幸いな事よ、主が罪をお認めにならない人。**

つまり、あなたの口座に入金され、主であり救い主であるイエス・キリストの口座から、あなたに代わって引き落とされるのです。ここで少し時間を使いたいことがありますので、お付き合いください。考えていただきたいのは、「おそらく」という言葉です。「おそらく」という言葉を、パウロが使ったように使いたいと思います。あなたの人生で起こっていることの原因の一つは、おそらく、あなたのためではないかも知れないということです。ショッキングなことだとは思いますが。決して嫌味な言い方をしたいわけではありません。むしろ、あなたの戸惑いや危険な状況は、あなた自身ではなく、他の誰かのため役に立っているのではないかと、提案したいのです。なぜなら、あなたがその逆境にどう対処するかを、見ている人たちがいるからです。彼らはあなたのことを、とてもよく観察しています。

「あなたは生きた手紙だ」と、使徒パウロは言っています。(第二コリント3:2 参照)

あなたは人々が読む、生きた手紙なのです。彼らはあなたの人生の手紙を読み、それがどのように読まれるのかを知りたいのです。さて、あなたには、この章のような人生があります。深刻な状況を経験する、かなり荒れた章ですね。そのような深刻な状況の中で、信仰深い対応の模範を見たいのかもしれませんが。あなたの人生の試練は、”神がそれを、誰かの人生のために使いたいと思っていらっしゃる”と考えたことはありますか？ 彼らは、あなたがこの状況を経験しているのを見ると同時に、神が、あなたをそこから救い出されるのを見えています。それが神のなさることですよ？ ああ、私は何度、「神がこの試練から助け出してくださるように」と、願ったでしょう。しかし、神はこう答えられます。

「助け出すつもりはありませんよ。そうすれば、テストを受け直さなければならないから。」私は学生時代、再テストを好きにはなれませんでした。「私は、あなたをそこから助け出すつもりはありません。私は、あなたが想像もしなかったような方法で、あなたを乗り越えさせようとしています。」そして、その最後には、あなたの人生の中の、あなたに近い人々があなたを見て、神を讃えることになるでしょう。あなたの方の中に、私を見てこう言う人もいるでしょう。「私の試練は、誰かのせいだと言うのですか？！ 彼らのせいですか？！」いいえ！神はあなたにも働かれておられます。神は、あなたの人生に許された逆境の中で、その逆境を通して、あなたの人生に働きかけておられるのです。しかし、20節では、このこと

に注目してください。パウロは、ピレモンがパウロによって新たにされることで、パウロから、何らかの恩恵を得ることができると言っています。それが分かりましたか？ 言い換えれば、私たちが話しているのは、使徒パウロのことです。あなたは、もしかしたら自分の人生に、神が祝福し、新たにし、恩恵を与えたいと願っておられる、使徒パウロがいるかもしれないと、考えたことがありますか？「ええ、私たちはパウロについて話しています。使徒パウロのような人を、どうやって祝福することができるでしょうか？」あなたにはわかりません。このように考えてみてください。もしかしたら神はあなたに、誰かをキリストに導くという素晴らしい特権を与えられたのかもしれませんが。あなたは、彼らが主の中で成長し、キリストの中で成熟し、何年もかけて恵みの中で成長していくのを見ます。そして、彼らがある状況を経験し、信仰深い方法でそれに対処するのを見ます。それは、あなたの心を祝福しませんか？あなたが彼らをキリストに導いた人なので。そして今、あなたは彼らを見ています。なんて爽やかなのでしょうか。なぜなら、使徒パウロの人生における一人ひとりのピレモン、その内どれだけの人が、そのようではなかったですか？キリストのもとに来た人で、今、主と一緒に歩んでいない人をどれだけ知っていますか？あるいは、救いのことを言っているのではありません。私が話しているのは、あなたは彼らの人生を見て、あなたが救われたのとほぼ同じ時代に、彼らも救われたということです。そして不必要に、彼らの人生は問題に次ぐ問題にまみれ、それに心が痛むのです。そして、あなたにはピレモンがいます。先ほど読んだように、そしてこれから少しずつ話していきますが、彼はこう言います。「私が求めること以上のことまで、あなたはしてくださると、分かっています。なぜなら、それがあなたの姿であり、それは新鮮な空気のようなのです。」

使徒パウロが、ピレモンのことを「彼は元気づけてくれる人/ 新鮮な空気のような人」と言ったのは二回目です。これで三つ目の話になります。22 から 25 節ですが、これは非常に重要です。どれも重要なのですが、それは「思いがけない祈りの答え」ということもあるかもしれませんが。これについて説明します。パウロがここで言っていることは、いくつかの理由で非常に興味深いのですが、そのうちの一番の理由は、彼がピレモンのところに行くことが、ピレモンの祈りに対する答えになると言っていることです。つまり、ピレモンはパウロが自分のところに来てくれること、一緒にいてくれることを祈っていて、パウロはそれを知っているのです。パウロも同じことを祈っていたと思われます。

「主よ、扉を開けてください。そうすれば、私の兄弟であるピレモンと一緒にいられます」と。彼はピレモンに言います。「最後に一つ、(最後に一つ…) 私の宿も用意しておいてください。あなたところに行き一緒に過ごします。それがあなたの祈りの答えとなるでしょう。」主を讃えましょう。しかし、そう急がずに…。ピレモンは、そのように祈っていたかもしれませんが自分の祈りがこのような形で答えられるとは思っていなかったのではないのでしょうか。もう一度、お付き合いください。私がこの点を指摘したのは、ここから、ピレモンは確かにこのことを祈っていましたが、このような形で実現するとは思っていなかったのではないかと推測できるからです。ここでちょっと考えてみましょう。彼の祈りは、おそらくオネシモに有罪判決を下し、彼が戻ってきて仕事に復帰し、そして、パウロが来るための扉を開くことだったのではないのでしょうか。彼は正しいことを祈っていたのですが、その方法は間違っていました。それは興味深いことではありませんか？「あなたは、何を言いたいのですか？」私が言いたいのは、私自身の祈りの生活の中で学んだのは、私たちの祈りが答えられない理由の一つは、実際には正しいことを祈っているのに、間違った方法で祈っているからだということです。同じことを別の言い方で試みましょう。祈りは、祈る人を変えます。これは言葉遊びですが、要点はお分かりですね。祈りのリストや、祈

りの日記をつけている人は、その祈りを振り返ったことがありますか？ 私は、長い間、実際 20 年間続けています。私が祈った祈りのいくつかは、「ああ、主よ、あの祈りに答えてくださらなくて、本当にありがとうございました。もしあなたがその祈りに答えていたら、その結果は壊滅的なものになっていたでしょう。」神はそれをご存じです。ここで私たちは祈っていますが、それは神の御心に沿うものではありません。神の御心に沿わなければ、私たちの求めるものは得られません。天国にいらっしゃる神の御姿が目浮かびます。私たちは、「神よ、これをやってください」と祈っています。そして神は「あなたは私にそうしてほしいはずですよ。」つまり、私は「これをやりたいが、この方法でやりたい。ああ、そしてこの時に。」と。「私はオネシモを取り戻しに行きます。パウロが来るので、部屋の準備をして、シーツや布団を変えて…」しかし、オネシモが戻ってくる時、彼は奴隷としてではなく、キリストの兄弟として戻ってくるのです。「ああ…、私はそんなことを祈ってはいませんでした。」それは、私たちが祈るとき、神はとても優しく、聖霊はとても優しく、私たちに、「その祈りには答えたいが、その方法では答えられない。」と語っておられるようです。「本当は、あなたは私がその祈りにその方法で答えることを望んでいません。私にはその祈りに答えるもっと良い方法があります。私はあなたにそのように祈ってほしいのです。あなたがそのように祈るとき、私はそれに答えます。」祈りは祈る人を変えます。時々、私たちはあまりにも低く祈りすぎていると思うのです。私が何を言いたいかわかりますか？ こんなにも大きな神がいらっしゃるのに、私たちはこんな小さな祈りしかしません。私は、このユーモラスな描写が大好きです。「この男が祈る準備をしています。神はちょうど天の軍勢を待機させているところです。ガブリエル、ミカエル、天の軍勢よ集まって来なさい。JD が祈る準備をしようとしています。彼が求めるものは何でも、私の御心に沿うものは何でも私に求めることができるから、君たちはそこに降りて行って、それを実現してやりなさい。彼は準備している。準備していなさい、彼が今から祈るから！ここに私がいます。例として自分自身を使います。「主よ、この食事を感謝し、私たちの体が祝福してください…」

「気にするな、ただ食事の祈りだ。ここで私は、月と星、天と地を負って、彼の求めることは何でもする準備ができていた。求めなかったのに、彼が手に入れることはない。」

これは大げさな、ほとんど愚かな描写方法であることはわかっています。しかし、言いたいことはわかりますよね？ ここでピレモン、あなたは、オネシモが戻ってくるように祈っています。彼が救われて戻ってくるように祈ればいいじゃないですか。どうですか？ 神に何をお願いしているのか、考え直してみませんか？ 神には何でも求めることが出来ると知っていますね。もしそれが主の御心であり、主の栄光のためであれば、あなたはそれを手に入れることができます。そして、小さく祈ってはいけません。つまり、常識はずれな 祈りをして、神の御心のゆえに、神がそれを実行なさるのを見るのです。天上にいる神の御姿が目浮かびます。ヨハネの黙示録のように、私たちの祈りがとても香り高いものであれば、それは鉢の中に入っていて、御座の前で香りを放っています。ですから、私たちの祈りが神にとって尊いものであることはすでにわかっています。そして、神は天国の御座に座って、私たちが大げさなことをお願いするのを待っておられるのではないかと思います。そうすれば、彼は実行できるからです。なぜなら、彼にはお出来になるからです。それがお出来にならない唯一の理由は、私たちが神にそうなるように求めたり、期待したりしないからです。私は福音書について考えていました。何度…そして、イエスの御声が厳しい口調だとは決して想像しないでください。それは愛に満ちた同情と困惑に近いものだったと思います。「あなたの神はとても大きいのに、なぜ、あなたの信仰はとても小さいのですか？

なぜ、あなたは疑うのですか？なぜ、心配するのですか？ 天の御父があなたに必要なものをすべて

与えてくださることを知らないのですか？ 自分を地上の親として、地上の父として、地上の母として考えてみてください。あなたの子どもが何かを要求してきます、それは良いことです。あなたは彼らに渡さないのですか？ 差し控えるのですか？ 彼らが魚を求めると、蛇を与えますか？ パンを求めたのに、石を与えるのですか？ これだ、少し硬いが、これを持っていきなさいと。いいえ、あなたが求めるとき、天の御父はどれほどでしょうか？ 求めなさい。あなたは何を失うことになるのですか？」

(マタイ福音書 7:7~11 参照)

「ええ、よくわからないんです。私の祈りは天井から跳ね返ってくるような気がするんです。」そんなことはありません。神はあなたの祈りにお答えになります。神がお与えになられた答えは、気に入らないかもしれませんが、3つの方法の内の1つであなたの祈りにお答えになっています。神は「はい」と仰ってくださいませんか。私は神がそうしてくれるのが大好きです。「主よ、ありがとうございます。」あるいは、神は「いいえ」と仰る。神が「いいえ」と仰るのは大嫌いです。あるいは、「待ちなさい」と仰る。私はそれが大嫌いです。私はむしろ、「いいえ」と言われた方がいいと思っています。そうすれば、再構築して、「じゃあ、これはどうですか？」と返すことができます。「これがダメなのは分かりました。じゃあ、これは？」と。しかし「待ちなさい」と言われると、まるで今あなたが保留されているようなものです。待たなければならない。でも待つのは嫌いです。「タイミングが正しくないの、あなたは待たなければなりません。私はそれをするつもりだが、もし私が今すぐそれをしたら、…私を信じなさい、あなたは私に今それをして欲しくないでしょう。なぜなら、それはあなたから待つことの祝福を奪うことになるからです。」イザヤ書 30 章 18 節の御言葉を思い出します。「それゆえ主は、あなたがたに恵みを与えようとして待ち…」神が遅らせておられるのは、神が否定しておられることではありません。ありきたりに聞こえるかもしれませんが、本当に真実です。神のタイミングは常に完璧なのです。私たちは、神は決して遅れないとすぐ言いますが、神は決して早すぎることはない、とは言いません。神のタイミングは常に完璧なのです。さて、この手紙を終わらせる前に、もし皆さんが私と同様なら、この手紙を終わらせたくありません。私は、この短い手紙から得られるいくつかの人生の教訓を皆さんと共有したいと思います。では、順不同ですが、最後の1つが最も時間をかけたいものです。理由はお分かりになるでしょう。しかし、私が見つけた5つの人生の教訓は、なぜこのような書が聖書に載っているのかを説明する主な理由であり、さらに重要なことは、今日話していることの背景にあるということです。人生の中で、神が不可解なことをお許しになった時には、このようなことがヒントになると思います。理解できず、神が何をされているのかわからないのです。あなたは、なぜ神がそれをされているのかわかりません。なぜ神がそれを許可されているのかわからないのです。そこで、私は5つを見つけました。

これが1つ目です。これは重要です。これについて考えてみましょう。パウロが評判を賭けてオネシモを回復させたのは、彼自身、バルナバが評判を賭けてパウロを受け入れたからです。分かりますか？ タルシシュのサウロがクリスチャンを殺害し、ダマスカスへの道を歩いているところに戻りましょう。神は彼をつかまえられ、救われました。(使徒の働き 9 章参照)

「彼ではない！ どうかしてる、彼はあなたが考える最後の人物です。彼は、叔父の死に責任のある人です。」「そうだ、その人だ。」「救われた？ まさか！」「そのまさかです！」誰かが彼のために祈ったに違いありません。そうです。それが誰かわかりますか？ 使徒の働きに記録されています。ステファノ、最初の殉教者で石打ちの刑に処せられました。タルシシュのサウロもそこにいました。実際、その殉教者の死を承認する彼の指紋がありました。そして、ステファノは彼らのために祈りました。彼は息を引き取る前



に、パウロが誰であるかを知っていたのだと思います。彼は彼らの救いのため、そして救い主が祈られたように祈りました。

「御父よ、彼らをお赦してください、彼らは自分がしていることが分からないのです。」

(使徒の働き 7:60、ルカ 23:34 参照)

それがパウロの心に残ったのだと思います。そのことが彼を悩ませ、振り払うことができなかったのだと思います。今、私たちは本当に深刻な問題を抱えております、それはオネシモが幼稚園児のように見えるほどです。教会を迫害し、クリスチャンを殺害した男が、今や救われたのですから。実際、使徒の働きの中には、このような記述があります。誰もが「いや、これはトリックだ。これは罠だ。」

「おい、救われた男がいるんだ。タルシシュのパウロという名前を知っているだろう、彼を私たちの家の聖書学び会に招待したいんだ。」「ええ、いいや、そうはいかない。」そしてバルナバという人物が、後に使徒パウロと呼ばれるタルシシュのパウロのために、自分の身を危険にさらすことになります。彼は「私が保証人になります。私が責任を取ります。彼は良い人だ。彼は救われた。彼を歓迎しよう。」と言います。(使徒の働き 9:26~27 参照)

それがパウロにとってどんな意味を持つか想像できますか？ 誰も彼に近づかないし、バルナバは自分の評判を危険にさらしています。パウロが自分の評判を危険にさらしているように。逃亡した奴隷が近くで捕まったら、どうなるか知っていますか？ 捕まった逃亡奴隷たちは額に印をつけられました。

一生、"逃亡奴隷"という印をつけるのです。それで、ここにパウロがいるのです。まず始めに、彼をキリストに導き、今度は自分の身を危険にさらそうとしているのです。結論は明確ですね？ あなたがそれを受け取る側となり、あなたがその反対側の立場にいる時は、それに報いるべきではないでしょうか？ イエスが弟子たちに祈りを教えられたとき

「こう祈りなさい。私たちの負い目をお赦してください。私たちも、私たちに負い目のある人たちを赦します。」と仰いました。(マタイ 6:12 参照)

回復と赦しはどのようにして可能なのでしょうか？ あなたがすべきことは、自分がどれだけ赦されているかを知り、それを思い出すことです。それが方法です。これは2つ目に繋がります。ピレモンに関することです。ピレモンが教えてくれるのは、自分が傷つき、不当な扱いを受けているときには、赦すことはとても難しいことですが、自分がどれだけ赦されているかを知っていれば、赦すことができるということです。そして、私たちは忘れてしまいます。だからこそ、パウロはピレモンに、自分が彼をキリストに導き、彼の罪がすべて赦されたことを思い出させたのだと思います。だから今は、ピレモンが、自分が赦されたように、彼の罪を赦す時なのです。

3つ目です。これはオネシモに関係しています。オネシモからの教訓は、自分が間違っただけをした人に許しを請い、さらに、どんな犠牲を払ってでも、それを正すことが最も重要であるということです。誰かを傷つけたのなら、許しを請い、その関係を修復する必要があります。

4つ目です。これは話しましたので、多くの時間はかけません。しかし、私たちは、神の祝福と奇跡という永遠の御手を、私たちの一時的で地上的な思考のロープで結ぶことで、大きな過ちを犯していると思うのです。繰り返しになりますが、私たちは永遠という観点から考えていないので、神の御手を縛っているようなものです。私たちは永遠の神に仕えています。神は全能です。すべての力を持っておられます。神は全知です。すべてを知っておられます。神は普遍的で、どこにでも存在されます。神は全能の神、最も崇高な神です。天と地と海と、その中にあるすべてのものを創造されました。あなたの問題は何かでし

たか？ 何が必要でしたか？ 神は全能の創造主であり、全知全能の神であるだけでなく、あなたの天の御父であり、あなたのために御子を送って死に渡されたほど、あなたを愛しておられるのです。私は、パウロが書いたローマ人への手紙第8章を考えます。彼はこう言いました。

「御子さえも惜しむことなく死に渡された神が、どうして私たちに恵んでくださらないことがあるでしょうか」

冗談でしょう?! すみません、私は怒っていません。おそらく、何よりも自分自身に腹が立っているのでしょう。あの時、壮大なことをして下さると、ただ神に信頼していたらと思うと。神は永遠であり、神にとって難しいことはありません。全てのことが可能です。「でも、私たちは子どもを持ってないと言われました。」本当ですか？ 私は子宮を開くことができます。「ああ、末期だから身辺整理をしないとイケないと言われたんだ。」おお本当ですか？ 私は癒すことができます。私は癒しの神です。「ええ、基本的にはゲームオーバーのようなものだと言われてますし、良くはありませんね。」本当ですか？ 私は与える神である。私は、あなたが必要とするものを何でも与える神です。ただ求めなさい。そして、弱気な小さな祈りはいりません。神は待機なさっています。神は必要なものをすべて用意しておられるので、求めてください。最後の1つは、どうか私の心からの声に耳を傾け、どうか誤解しないでください。しかし、これは私にとって、おそらく最もパワフルで応用の利く人生の教訓であり、個人的な収穫でもあります。この手紙には、パウロが投獄されたことを政治的に抗議したり、社会的に正義を求めたりしたことは一切書かれていませんでした。一番最初の節、一番最初の言葉は「イエス・キリストの囚人であるパウロ」です。ローマの囚人でもなく、当時の政党の囚人でもありません。集会や抗議活動の呼びかけもありません。いや、彼は自分がなぜそこにいるのか、誰がそこに置くことを許されたのかを知っています。そして、誰が彼をそこに置かれたのかというと、イエスです。なぜか分かりますか？なぜなら… 想像できますか？囚人は24時間365日、ローマの看守と交代で鎖で繋がれていたのです。今の囚人たちとは違います。彼らはローマの看守に文字通り鎖でつながれていました。そして勤務が終わると、新しい看守が来て、ずっと鎖でつながれていたのです。それはどれほど気まずく、不快なことでしょうか？ 1日24時間、週7日間、鎖につながれているのです。これが私の考えていることです、これは私の脳の働き方にすぎません。これに臨床用語があることは分かっています。しかし神は、こうお考えになったのではないかと思います。「パウロと鎖でつながれる勤務に入っているのは誰ですか？ なぜなら、彼は救われるべきだからです。」「彼と代わりなさい。」と仰って、彼らはそうしました。だからこそ、あなたはそこにいるのです、パウロ。もし私がパウロなら…、正直になりましょう、いいですね？そして、もう一度自分のことを話します。私はパウロで、牢獄にいます。私は皆に電話します。「おい、えーと、私たちは集会が必要だ。私はここに不当にいる。正義のためにここにいます。私をここから出さなければなりません。」それに対して天国の神は、「待ちなさい、そもそも私があなたをそこに置いたのです。何を急いでいるのですか？ あの人たちが救われなければならないから、あなたをそこで用いようと思っているのです。」「彼らは違います！」—「いえ、彼らもです。」「ええ、でも…！」「ああ、私は彼らのことも愛しています。あなたを愛しているのと同じくらい、彼らを愛しています。彼らが救われて欲しいのです。そしてあなたは、私が彼らを私のもとに連れてくるために選び、用いる者なのです。」繰り返しになりますが、これは特にこんにちでは、微妙な話題です。あなたは抗議活動や集会、そして不正について話し始めます。あるコメンテーターの言葉を聞いてください。これがすべてを物語っていると思います。「パウロは奴隷制度の崩壊を求めたことはありませんが、ピレモンへの手紙に書かれている原則は奴隷制度を破壊

するものです。最大の社会変革は、人々の心がひとつずつ変わっていくときに起こります。私たちの社会では、人種差別や胎児への軽視は、法律でなくすことはできません。心の変化が起こらなければなりません。」それは、素晴らしい論破です。(※直訳：マイクを落とす) 据え置き型のマイクなので、私はマイクを落としません。しかし、もし私がマイクを手を持っていたら、今すぐにでも落とすでしょう。分かりましたか？ 良いでしょう、これが、最後の最後の一つです。考えてみてください。初代教会は、キリストのために世界をひっくり返しました。どうやってそれを行ったのでしょうか？ 彼らは建物を持っておらず、まだ聖書さえ持っていませんでした。新約聖書もまだ書かれていなかったのです。彼らは落とすマイクを持っていません。何もなかったのに… 彼らは世界を変えたのです。どのようにして行ったのでしょうか？ 心一つにすることです。このことは「預言アップデート」でもお伝えしましたが、これで締めくくります。私は自分自身にそれをしています。これは問題なのですが、自分自身にプレッシャーをかけていました。特に最近の「預言アップデート」の重さは、明らかに理由があると思います。先週、主との時間の中で、主は、主だけがお出来になる方法で、私を呼び止め、語りかけ、こう仰いました。

「とにかく彼らを私のところに連れてきなさい。できるだけ早く彼らを私のところに連れてきなさい。ただ、人々をイエスのもとに連れて行きなさい。あなたのすべきことはそれだけです。」私は自分で自分を追い込んでいて、つまり、「わー、こんなことが起こっている。このことを伝えなければならない。あれについても警告しなければならない。このことについて説明しなければならない。これとどう繋がるのかを示さなければならない。」主がこう仰っているようです。「やめなさい。止まりなさい。ただ彼らを私のところに連れてきなさい。」「分かりました、それであれば簡単です。」「あとは私がやります。」

魚を捕まえる前に、魚をきれいにしようとしていることもあると思います。もっと良い描写を探してみます。もっといいのがあったら教えてください。聖霊の力によって救われていない、生まれ変わっていない人たちに、どうしてそのような行動を期待するのでしょうか。私はある牧師の話思い出します…

これが最後の最後です。ある牧師の言葉を聞いたことがあります。”学校での祈り、学校での祈り、学校に祈りを取り戻す必要があるという騒動です。”彼は、「教会に祈りを取り戻してはどうか？」と言いました。ああ！ああ…！少しは痛かったでしょうか？ そうであると良いですが、私はやられました…。その通りです。それは教会から始まり、私たちから始まります。

お立ちください。賛美チームは上がって来てください。ああ、ここにはたくさんものがあります。実は、ピレモンにもう少し時間を割こうと考え、祈り、主をお願いしたのですが…。来週は、主の御心によりヘブル書から始めます。

主よ、ありがとうございます。神様、あなたの御言葉、それは私たちの道の光であり、私たちの足のともしびです。それは、この非常に暗い世界で私たちが進むべき道を照らしてください。日に日に暗くなっていくような気がします。主よ、あなたの御言葉に感謝します。それはいのちであり、いのちのパンであり、いのちの水です。主よ、ピレモンのことを感謝します。今日、私たちがこの手紙の中で見たことを、あなただけがお出来になるように、聖霊によって、私たちの人生に適用し、構築する過程を始めてくださるよう祈ります。主よ、あなたがそうなさるときに、私たちがあなたに抵抗することを許さないでください。なぜなら、これは私たちの人間性と罪の性質のすべてに反するからです。私たちの罪の性質、私たちの肉は、このすべてに不満を抱いています。主よ、あなたに感謝します。神の御霊であり、神の御言葉を通して、神の民に働いてくださる聖霊に感謝します。イエスの御名において。アーメン。

-----  
メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7